

平成 29 年度 第 1 回いじめ問題対策委員会 議事録

- 1 開催日時 平成 29 年 4 月 20 日 (木)
- 2 開催場所 三島市役所中央町別館 3 階第 4 会議室
- 3 出席者氏名 委員 土屋 賢太郎 委員
三浦 興一郎 委員
事務局 西島 玉枝 教育長
長谷川 昭 学校教育課長
西島 真美 学校教育課副参事
井原 正則 学校教育課指導主事
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴人の人数 0 人

6 議 事

(1) 第 1 号議案 平成 29 年度三島市いじめ問題対策委員会活動計画について

(2) 第 2 号議案 平成 29 年度三島市いじめ問題対策委員会の役割確認及び重大事態対応の流れ

(委員質問) 総合教育会議はどのような会議か。

(回答) 市長が招集し教育委員会と市長が本市の教育について協議する場。構成員は教育委員と市長になる。

(委員質問) フローについて、学校主体と教育委員会主体の振り分けをしているが、仮に学校主体で調査をした後に、さらに、教育委員会主体のというような流れはあるのか。このフローだとなさそうに見える。

(回答) 学校主体の調査の結果を市長及び関係者に報告した上で、再調査の必要があれば再調査に入る。ケースバイケースであるが、市長部局にも再調査機関があるので、そちらで行うか、本委員会になるか、ケースバイケースである。

(委員質問) 委員会の主目的は防止なのか。

(回答) 本委員会自体の目的は防止である。しかし、重大事態が発生した際には教育委員会の附属機関として、調査機関になる。

(委員質問) (重大事態対応の流れは) 被害を受けた側のフォローのイメージ。世論の関心は被害側ではないので、防止のターゲットも被害側ではない。学校主体の流れの方は「加害児童生徒」という言葉が出てくる。委員会の方は出てこない。

(回答) 調査する上で、加害児童生徒との接点も出てくる。委員会主体の調査にも、学校主体の調査の内容を加えるよう検討する。

(事務局から) 本委員会が調査をしていく上で、加害の児童生徒と接点を持つことについて、考えを伺いたい。

(委員回答) 必要があるとか、会いたいということではない。シビアな案件がこちらに回ってくるにもかかわらず、シビアでない方の流れが加害児童生徒が入ってきて、逆ではないかと感じる。

(事務局から) この件については、検討し、次回に提案させていただく。

(委員質問) 横浜はどうだったのか。

(委員質問) 同じような委員会があるのだとしたら、大変なことになっていたのでは？

(回答) 調査に当たった機関が、タイトなスケジュールの中で、学校へ訪問したり子どもたちに聞き取り調査をしたり、加害被害周りの子ども、かなりの頻度で調査に当たったようである。

(委員質問) (重大事態対応の流れにおいて、) 聞き取りとか調査という観点では、教育委員会主体であっても関わるのだと思うが、個別具体的なその後の指導、関わりについては右と左で違うというイメージでよいか。個人のパーソナリティーが事件にどの様に影響したか、という切り分けもあると思うが、最終的に、生徒が二度と同じようなことをしないというのが相互作用である。生徒個人の問題としてあるのであれば、日々関わっていく先生・学校が主体となるのであって、そこに助言はするかもしれないが、委員会が何かをするという話ではないということによいか。

(回答) 本委員会については、間接的に関わるが、直接的な関わりについては学校主体の流れになってくるという考えでよいか。このところも、教育委員会の見解としては預からせていただく。

(3) 第3号議案 平成28年度いじめの調査結果

(委員質問) アンケートは具体的にどうやっているか。

(回答) 各学校基本方針の中で、行事の後に実施することになっている。内容については学校任せ。小学校ではアンケートは有効的。中学校ではそこまでではない。

(委員質問) クラスで紙を配って書かせるのか。そのやり方は厳しいのでは。書いたかどうか分かってしまう。記名式なのか。

(回答) 方法は学校任せ。追跡で調査する、詳しい聞き取りをするためには書いた本人が分からないといけない。

(委員質問) 公平、秘密、安全など、中学校でクラスの中で一人の担任が全員に安全にアンケートを書かせるのは不可能に近いのでは。

(回答) すべての学校ではないが、アンケートを封筒とともに持ち帰らせ、家庭で保護者と一緒に書いた上で、封筒に入れて全員提出させる方法を取っている。

(委員意見) どれが一番か分からないが、学校によってアンケートの有効性が違ってくる。しかし、全校一緒にアンケートで発見と出しているので誤差が大きいと思われる。

(事務局から) 全員一緒に行うと、書いている書いていないが周りに分かってしまうため、全員が回答する項目を作り、全員が何かを書いている状態を作る工夫をしている学校もある。

(委員質問) 書きたくても書けなかったという悔しい思いをしている生徒もいるのでは。そういうお子さんは別ルートで教えてくれるかもしれないが。

(回答) 個別に面談を定期的に行っている。アンケート方法については検討していく。

第4号議案 その他

なし

事務連絡

「三島市いじめの防止等のための基本的な方針」の見直しについて